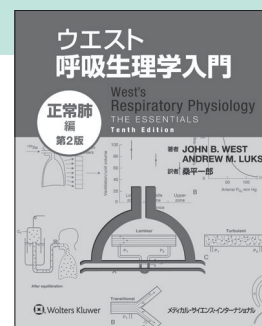


『ウエスト 呼吸生理学入門：正常肺編』 第2版

(原題：West's Respiratory Physiology: The Essentials, 10th Edition)

John B. West, Andrew M. Luks / 原著

桑平一郎 / 訳



(B5変 260頁 2017年
定価：本体 3,800円＋税
[ISBN978-4-89592-871-7]
MEDSi刊)

評者 西村正治 (元) 日本呼吸器学会理事長／北海道大学大学院医学研究院・医学院 呼吸器内科学講座教授

かの有名な John B. West 先生による呼吸生理学の名著“West's Respiratory Physiology: The Essentials”10th Edition が東海大学医学部 桑平一郎教授によって翻訳され、『ウエスト 呼吸生理学入門：正常肺編』第2版として出版された。本書は1974年に初版が出版されて以来、世界中で読まれてきた呼吸生理学のバイブルである。この度、原著第10版には West 先生の弟子である Andrew M. Luks 先生が共著者として加わっている。

この本が呼吸生理学のバイブルと呼ばれる所以は、それほどに世界中で呼吸器病学に関わる多くの人に読まれてきたこと、そして、初版が発行されて40年以上経ってもその内容が古くなるということとは無縁だからである。それどころか、分子生物学的研究が全盛の現代にあっては、呼吸器病学を学ぶ基本としてその重要性はさらに増してきていると言える。「木を見て森を見ず」というような落とし穴に入り込まないためにも肺の構造と機能を正しく学ぶことは呼吸病学の臨床・研究をするうえでの第一歩であり、この本ほど呼吸生理学の教材として優れ

たものはない。内容が洗練され、見事にコンパクトにまとめられているのである。呼吸生理学を学ぶ第一歩の教材としても、あるいは、呼吸器病学を理解する過程での知識の再整理のためにも役立つ。

桑平氏は見事な翻訳によって、原著の素晴らしさを余すところなく伝えている。自身が呼吸生理学者であるため、単なる直訳本とは異なり一語一語の翻訳に気を配り、West 先生の思考過程をなぞるような訳者の意欲が伝わる。欄外のところどころに訳者注があり、読者の理解の助けとなっている。

肺は生体内でもっとも複雑な臓器であり疾患の種類も数も多い。生命維持にもっとも大切なガス交換という機能ひとつをみても複雑であるがゆえに医学部学生や研修医からは敬遠されがちである。しかし、私自身を含めて本書を読んで肺の魅力に取りつかれた人もまた数多くいるのである。この呼吸生理学のバイブルは呼吸器専門医を目指す者はもちろん、医学部学生、卒後研修医、呼吸器疾患を診る一般医にも広く読んでいただけたらと思う。